Q：ダビデが取り下げられた臨在のパンを食べた時の大祭司は、第一サムエル 21:1 ではアヒメレクだと言われています。でも、マルコの福音書 2:26 では、イエスは「大祭司エブヤタルのころ」だと言っています。どう考えたらよいのでしょうか。

A：確かに、第一サムエル 21:1 では次のように言われています。

> ダビデはノブの祭司アヒメレクのところに来た。アヒメレクは震えながら、ダビデを迎えて言った。「なぜ、お一人で、だれもお供がいないのですか。」[1]

しかし、マルコ 2:26 ではイエスが次のように言っています。

> 大祭司エブヤタルのころ、どのようにして、ダビデが神の家に入り、祭司以外の人が食べてはならない臨在のパンを食べて、一緒にいた人たちにも与えたか、読んだことがないのですか。

イエスが言及している「大祭司エブヤタル」はアヒメレクの息子です。サウル王がアヒメレクを含む祭司を虐殺した中を逃げ延び、逃亡中のダビデと合流した祭司がこのエブヤタルでした（1 サム 22:20）。

イエスは、安息日に弟子たちが麦の穂を摘んで食べたことを巡るパリサイ人たちとの論争のなかで、ダビデの逸話に言及しました（マコ 2:23–28）。並行箇所はマタイ 12:1–8 とルカ 6:1–5 ですが、エブヤタルの名前はマルコにしか出てきません。これは、マルコが間違ってしまったのでしょうか。それとも、イエスが間違ってしまったのでしょうか。

検証

まず、イエスが間違ったという可能性は排除して良いでしょう。イエスが間違っていたらパリサイ人たちはそこを指摘したはずですが、そういう記録はありません。実はパリサイ人たちはそれを指摘していたのだけれども、マルコが除外したのだということも考えられません。パリサイ人たちの批判だけを除外したとしても、エブヤタルの名前が残っていれば、読者たちがそれに気づいてマルコに指摘したでしょう。そもそも、イエスが間違っていたのだとしたら、ユダヤ人マルコがそれに気づかなかったとも思えません。その場合、彼はエブ

[1] 以下、聖書引用は新改訳 2017 より。

ヤタルの名前ごと、またはこのセクションを丸ごと除外したはずです。

残された可能性は、マルコが間違っていたか、それとも何か理由があってエブヤタルの名前が出されているのかです。単純に、マルコが間違えたということで良いじゃないかという考え方もあるでしょう。しかし、聖書は誤りなき神の御言葉であるという信仰に立つ私たちは、マルコが間違えたという可能性も除外します。この信仰は、他の聖書箇所によって打ち立てられているからです（2 テモ 3:16 参照）。

初期のクリスチャンたちは、この箇所が間違いだと指摘してはいません。後で触れますが、多くの写本はエブヤタルの名前を含んでいます。もし初期のクリスチャンたちがマルコの間違いだと考えていれば、この名前を除いた写本も多く残されていたはずですが、そうはなっていません。よって、マルコが何らかの意図をもってアヒメレクではなくエブヤタルの名前を出したのか、または後の写本で間違われたのかのいずれかということになるでしょう。

しかしながら、この問題に確実な答えを見出すのは困難です。「実際のところ、これは聖書の諸問題の中で、私たちが完全に満足のいく解答を見出せないもののひとつである。」[2] それでも、イエスの間違いでもなく、マルコの間違いでもない可能性について検証してみましょう。

仮説１：写本上のミス

確かに、古い写本の中には「大祭司エブヤタルのころ」という記述が抜け落ちているものもあります[3]。しかし、多くの信頼できる写本は、この記述を含んでいます。研究者らはむしろ、エブヤタルへの言及を落とした写本の方が、マタイ 12:4 やルカ 6:4 に倣ったのだろうと考えています[4]。

あるいは、マルコは元々「アヒメレク」と書いていたのに、初期の段階の写本（もしかしたら最初の写本）で間違ってしまったという可能性もあります[5]。しかし、これは最初期の写本が見つからない限り、検証の術がありません。

---

[2] Walter C. Kaiser Jr., Peter H. Davids, F. F. Bruce, and Manfred T. Brauch, *Hard Sayings of the Bible* (Downers Grove, IL: InterVarsity, 1996), 412.

[3] Bruce M. Metzger, *A Textual Commentary on the Greek New Testament*, 2nd ed. (Stuttgart, Germany: Deutsche Biblegesellschaft, 1994), 68.

[4] Kaiser et al., *Hard Sayings of the Bible*, 411.

[5] Ibid., 412.

仮説２：サムエル記第一には別の伝統のテキストがあった

実は、アヒメレクとエブヤタルの混合は旧約聖書の時点から見られます。たとえば第二サムエル 8:17 では「エブヤタルの子アヒメレク」という記述が見られます（他に 1 歴 18:16; 24:6 参照）。よって、第一サムエルについてもアヒメレクとエブヤタルが逆転している旧約本文があり、もしかしたらマルコはそちらの伝統に則ったのかもしれないというのです[6]。

しかし、「エブヤタルの子アヒメレク」については、実際にエブヤタルが息子にアヒメレクの名を付けたのだと捉えることもできます。それに、この仮説で想定されているような第一サムエルの写本はありませんので、やはりこれも検証の術がありません。

仮説３：あえてエブヤタルの名前で代表させた

ここで問題となっているマルコ 2:26 の記述 *epi Abiathar archiereōs* は、直訳すると「エブヤタルが大祭司だった時」となります[7]。しかしもっと幅広く、新改訳 2017 のように「大祭司エブヤタルのころ」とも訳せます。

たとえばルカは、カヤパが大祭司だった時代について「アンナスとカヤパが大祭司だったころ」と書いています（ルカ 3:2）。当時カヤパの舅アンナスが未だ権力を持っており、イエスの処刑とも大きく関わる人物であったため、ルカはあえてアンナスの名前も出しているのです。

アヒメレクがダビデに「臨在のパン」を食べさせた時、もちろん息子エブヤタルも祭司として生きていたはずです。マルコは（もしくはこの発言をしたイエスご自身が）ここでルカと同じように、ダビデに関する言及であったがために、ダビデの治世で大祭司であったエブヤタルの名前で代表させているというのが、この仮説の内容です[8]。

しかし、この解答にも問題はあります。アンナスの場合は大祭司の座を退いた後ですが、エブヤタルは第一サムエル 21:1 の時点で大祭司ではありません。また、イエスが言及しているのは確かにダビデに関する逸話ですが、ダビデの統治が始まる前の話です。

---

[6] Mark L. Strauss, *Mark*, ZECNT (Grand Rapids: Zondervan, 2014), 145. Cf. R. T. France, *The Gospel of Mark*, NIGTC (Grand Rapids: Eerdmans, 2002), 146.

[7] New Revised Standard Version や New English Translation などがこの形で訳している。

[8] Strauss, *Mark*, 145–46; Lou Barbieri, "Mark," in *The Moody Bible Commentary*, eds. Michael Rydelnik and Michael Vanlaningham (Chicago: Moody, 2014), 1523. Cf. D. Edmond Hiebert, *The Gospel of Mark: An Expositional Commentary* (Greensville, SC: Bob Jones University, 1994), 82.

ただし、後者の問題については、第一サムエル 21:1 はサムエルによってダビデが油注がれた（王に任命された）後の話ではありますので、その治世の有名な大祭司で代表させたという可能性も捨てきれません。またこの出来事は、エブヤタルが登場する 22 章の話と直結していますので、より有名なエブヤタルの名前で代表させたという可能性もあります。

仮説４：「大祭司エブヤタルに関する箇所」という意味である

マルコは 12:26 で「モーセの書にある柴の箇所」に触れています。当時、聖書の章節の区分はありませんでしたから、セクションの名前で記憶されていました。この「柴の箇所」という表現（*epi tou batou*）と「大祭司エブヤタルのころ」という表現は、出だしの前置詞 *epi* が共通しています。よって、当時のユダヤ人の間では、今でいう第一サムエル 21:1 が「大祭司エブヤタルの箇所」というセクションの一部だったのではないかというのが、この仮説です。既に申し上げたように、アヒメレクがダビデを助けた出来事は、サウルによる祭司たちの虐殺、そして生き延びたエブヤタルのダビデ陣営への合流といった出来事と繋がっています。よって、このセクションが「大祭司エブヤタルの箇所」と呼ばれていたとしてもおかしくありません。学者の中には、この選択肢が一番もっともらしいと考えている人もいます[9]。

ある学者は、「エブヤタルが第一サムエルの次の章まで言及されていない」のがこの仮説の問題だと指摘しています[10]。これについては、エブヤタル登場に至るまでの出来事が一連の流れに置かれているということから、一応説明はできると思います。

しかし、この仮説も問題が全く無いわけではありません。「柴の箇所」に触れている 12:26 は、原文では「モーセの書にある柴の箇所」が「読んだことがないのですか」という表現の直後に来ています。しかし、2:26 の場合はそうなっていません[11]。もしここで「大祭司エブヤタルの箇所」に触れているのだとしたら、マルコはかなりぎこちない表現をしていることになります[12]。また、一番の問題は、古代ユダヤ教でこの箇所が「大祭司エブヤタルの箇所」と呼ばれていた証拠がないということです。

---

[9] John D. Grassmick, “Mark,” in *The Bible Knowledge Commentary: New Testament*, eds. John F. Walvoord and Roy B. Zuck (Wheaton, IL: Victor, 1983), 114.

[10] James A. Brooks, *Mark*, NAC (Nashville, TN: B&H, 1992), 66.

[11] 新改訳 2017 では、2:25 と 26 のそれぞれ最後で「読んだことがないのですか」と言われている。しかし、ギリシャ語テキストではこの表現は 2:25 にしかない。

[12] Kaiser et al., *Hard Sayings of the Bible*, 411.

仮説５：元々は「大祭司エブヤタルの父のころ」と書かれていた

この仮説は、本来は「大祭司エブヤタル」の前に「父」を意味するアラム語「アッバ」(*abba*)が付いており、*Abba-Abiathar* と書かれていたというものです[13]。この場合、元々の表記は「大祭司エブヤタルの父のころ」だったということになります。しかし、「アッバ」の最初の 2 文字が「エブヤタル」の頭 2 文字と同じだったため、初期の写本作成者に見落とされてしまったというのです。

ある学者はこれが最良の説明だとしていますが、その学者自身も、これはマルコが元々アラム語で書かれたという前提の上に成り立つ仮説だと認めています[14]。これは立証されていませんので、大手を振るってこの仮説を支持するのは難しいと思います。また、仮に本来アラム語で書かれたことが確かだったとしても、写本がありませんので、やはり検証の術がありません。

結論

これまでの検証を通してみると、仮説３または仮説４が一番もっともらしいように思われます。しかし、満足のいく説明ということはできません。

結局のところ、マルコが何らかの意図をもってエブヤタルの名前を出したということは言えると思いますが、その理由まで特定することはできませんでした。この問題については、私たちの知り得る情報には限界があることを認めざるを得ません。しかし、次のように言うこともできるでしょう。

「この場合、この聖句は私たちの知識が常に不完全であることを明らかにしている。よって、私たちは自分の知識ではなく、神に信頼を置くのである。」[15]

---

[13] Brooks, *Mark*, 66.

[14] Ibid.

[15] Kaiser et al., *Hard Sayings of the Bible*, 412.